南郊ナイトスクール

みんなの学び場!～地域サポーターによる学習支援の取り組みから～

子どもたちの学びの場づくりを通して、子どもたちが達成感を感じたり、子どもたちの自己肯定感を高めたりしたいという地域の思いから始まった「南郊ナイトスクール」。地域の大人たちで作る「南郊中学校区家庭学習支援本部」が中心となり、2014年度末から始まりました。昨年度は毎週２回火曜日と金曜日の夜に、南郊中の１年生から３年生までの生徒約70人が、この学び場で数学と英語を中心に学習しました。

支援本部長の田中久生さんからは「学習サポーターが個別にサポートすることで子どもたちの学力も向上していると思います。また、ナイトスクールにはサポーターとしていろんな大人がいて、いろんな話ができるんです。子どもたちにとっては学習だけでなく、一つの居場所になっていると思います。」と、学力向上以外の効果も聞かせてくれました。田中さんはサポーターに、「授業で勉強を教えるというより、問題を子どもと一緒に考えてあげてください。」と言っているそうで、誰でも気軽にサポーターとして参加してもらえるように心を配っていました。

開校式の様子

スタッフの皆さんにも参加した動機など、ナイトスクールについて尋ねてみました。

南郊ナイトスクールの様子

サポーターの郡山さんは「僕は参加の動機といっても、ただ子どもが好きなだけかな。生徒たちは学習以外の話もしてくれることがあります。あと、僕らが小さい頃に地域のおじちゃん、おばちゃんにいろんなことをしてもらいました。そのことを何かで返したいと思ったんです。」と話し、同じくサポーターの原さんからは「自分の子どももナイトスクールに参加させてもらっていましたが、子どもはナイトスクールでの勉強が大好きでした。いつかこのスクールの生徒が、今度はサポーターとなって帰ってきてくれたらと思っています。」と話していました。

地域の大人たちの熱い思いに支えられている南郊ナイトスクール。学習だけではなく、子どもたちの一つの居場所となっているこの取り組みは、今年度も６月から南郊公民館を会場に始まっています。

核家族化や、地域におけるつながりの希薄化など、家庭や家庭を取り巻く社会状況の変化の中で、子育てを支える環境が大きく変わってきています。子どもたちの置かれる環境によって、可能性や夢に向かって挑戦する力が失われないよう、地域ぐるみで子どもを支えている皆さんを取材することができました。大人から「やってはいけない」と言われるのではなく、「こうしたらどうなるかな」と見守られながら、主体的に活動している子どもたちの姿や、地域の住民や大学生のサポーターと学ぶことで達成感や自己肯定感が生まれる姿が見られました。多くの人との関わりの中で、自分のことを認めてくれる大人が一人でもいれば、そこは子どもにとって安心できる「居場所」となるのかもしれません。

未来ある子どもたちのために、私たち一人一人ができることから始めていけたらと思います。